

2014年9月15日まで

トゲミフチドリツエタケ - 博物館初の新種の標本 -

トゲミフチドリツエタケは、5月に新種として発表されたばかりのきのこです。平塚市博物館に保管されていた古い標本を研究した結果、新種であることが分かったもので、博物館に保管されている標本の一つが、ホロタイプ(正基準標本)という、生きものの名前の基準になる、学術上きわめて重要な標本に指定されました。

トゲミフチドリツエタケという名前は、孢子(ミ)に突起(トゲ)のある、ひだの縁が茶色(フチドリ)のツエタケ、という形態を表したもので、学名 *Dactylosporina brunneomarginata* (ダクティロスポリナ ブルンネオマージナータ) も同様の意味を持ちます。

今回の新種のきのこは、神奈川キノコの会というアマチュアの研究会によって収集・整理されてきた標本の中にありました。

実は、きのこは身近なものの中にも名前がつかないものがまだまだたくさんあります。標本の作製・保存が簡単ではないために標本が残らず、他の動植物と違って、アマチュア研究者による研究の底上げが難しいこともその理由の一つです。

神奈川キノコの会は、調査・研究の結果を残し、神奈川県地域の生物多様性の資料とするために、平塚市博物館と協力して多くの標本を蓄積してきました。今回の新種のきのこは、20年以上に渡る地道な活動が実を結んだ1つの成果です。このことは、地域のアマチュア研究者と地域博物館の可能性を示していると考えています。

トゲミフチドリツエタケのホロタイプは9月15日まで、博物館2階展示室内で公開しています。



トゲミフチドリツエタケのホロタイプ